

かわさき区の宝物シート

宝物No.	こうぼうだいしへのみち(どうひょう)
10-19	弘法大師への道(道標)



エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区大師町4-48
問い合わせ	川崎大師平間寺
TEL	044-266-3420
FAX	044-277-8163
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/88/88bunka/home/top/ (川崎市内文化財案内)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩8分



基礎情報

- 寛文3年(1663)建碑。大師への参詣路を示す標識で、もともとは川崎宿の万年屋の脇、東海道から大師道への分岐点に建てられていた。戦後、平間寺境内に移された。高さ171cm、幅52cm、厚さ47cm。
- 市重要歴史記念物（昭和63年11月29日指定）。

由来・エピソード

- 寛文3年(1663)建立というのは、道標としては古く、しかも大型である。全国的に見ると道標の建立はおおむね元禄時代前後からが多い。300年以上にわたって風雪に耐え、摩滅や破損がほとんど見られないことは特筆に値する。
- 江戸時代、寛文・延宝の頃になると、にわかに街道の往来は賑やかとなり、川崎宿も大山講や富士講、伊勢参りなどの旅人がたくさん訪れるようになった。街道筋も整備が進み、各所に道標が建てられるようになる。はじめは木製のものが多かったが、石仏や墓石の造立の機運を反映し、石造の道標が造られるようになったと思われる。通常、道標は三叉路や十字路など道の分岐点に建てられ、それぞれの道の行く先を示すものであるが、この道標は大師への参詣路のみを示している点が特徴的である。また、川崎市内には道標としての石造物は72基が確認されているが、平間寺の道標は最古のものとされている。

補足・その他

- 道標は山状角柱で材石は安山岩である。四面に以下の刻銘がある。
正面： 大師河原
従是弘法大師江之道
災厄消除
左側面：こうぼう大し江のみち
右側面：こうぼう大し江のみち
裏面： 寛文三年癸卯曆五月廿一日

関連シート

- (10-17)川崎大師平間寺
- (10-18)六字名号碑
- (29-1)市指定文化財